

16:15 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリが七日間ティルツァで王となった。そのとき、兵はペリシテ人のギベトンに対して陣を敷いていた。

16:16 陣を敷いていたこの兵は、「ジムリが謀反を起こして王を打ち殺した」と言われるのを聞いた。すると、全イスラエルはその日、その陣営で軍の長オムリをイスラエルの王とした。

16:17 オムリは全イスラエルとともにギベトンから上って来て、ティルツァを包囲した。

16:18 ジムリは町が攻め取られるのを見ると、王宮の高殿に入り、自ら王宮に火を放って死んだ。

16:19 これは、彼が罪を犯して【主】の目に悪であることを行い、ヤロブアムの道に歩んだその罪のゆえであり、イスラエルに罪を犯させた彼の罪のゆえであった。

16:20 ジムリについてのその他の事柄、彼が企てた謀反、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

16:21 当時、イスラエルの民は二派に分裂していた。民の半分はギナテの子ティブニに従って彼を王にしようとし、もう半分はオムリに従った。

16:22 オムリに従った民は、ギナテの子ティブニに従った民より強かったので、ティブニが死ぬとオムリが王となった。

16:23 ユダの王アサの第三十一年に、オムリはイスラエルの王となり、十二年間、王であった。六年間はティルツァで王であった。

16:24 彼は銀二タラントでシェメルからサマリアの山を買い、その山に町を建て、彼が建

てたこの町の名を、その山の持ち主であったシェメルの名にちなんでサマリアと呼んだ。

16:25 オムリは【主】の目に悪であることを行い、彼以前のだれよりも悪いことをした。

16:26 彼はネバテの子ヤロブアムのすべての道に歩み、イスラエルに罪を犯させ、彼らの空しい神々によってイスラエルの神、【主】の怒りを引き起こした。

16:27 オムリが行ったその他の事柄、彼が立てた功績、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

16:28 オムリは先祖とともに眠りにつき、サマリアに葬られた。彼の子アハブが代わって王となった。

北王国イスラエルの王は目まぐるしく変わりました。ソロモンの後、ヤロブアムによって国は分裂し、その後王は、ナダブ、バシャ、エラ、ジムリ、オムリという順です。謀反につぐ謀反によるものです。

それゆえ誰が王であり、また誰についてゆくかどう人間の争いが無意味であることが分ります。ただ主のみこころを行う者でなければ、みな同じく悲惨な結末になるのです。

私たちも同じで、誰につくか誰と親しいかということ優先順位ではなく、主のみこころを行うというところに将来があるのです。

主は悪い者を懲らすために、悪い者を用います。それはその後の歴史と預言を見ても分ります。イスラエルまたユダの反逆ゆえに彼らは攻撃を受けますが、その攻撃をした国々もまた滅ぼされるのです。それは神の摂理です。

現代でも、争いによって誰かを正したつもりの人が、神様から離れているというのを見ることがあります。主に用いられたという自己満足がそこにあります。しかし私たちは心の動機を大切にしましょう。主に喜ばれる思いと方法で、謙遜に、

聖霊に導かれながら建徳的に正していきたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

